



新型コロナウイルスは過去のもの？

感染管理認定看護師 伊藤 紘恵

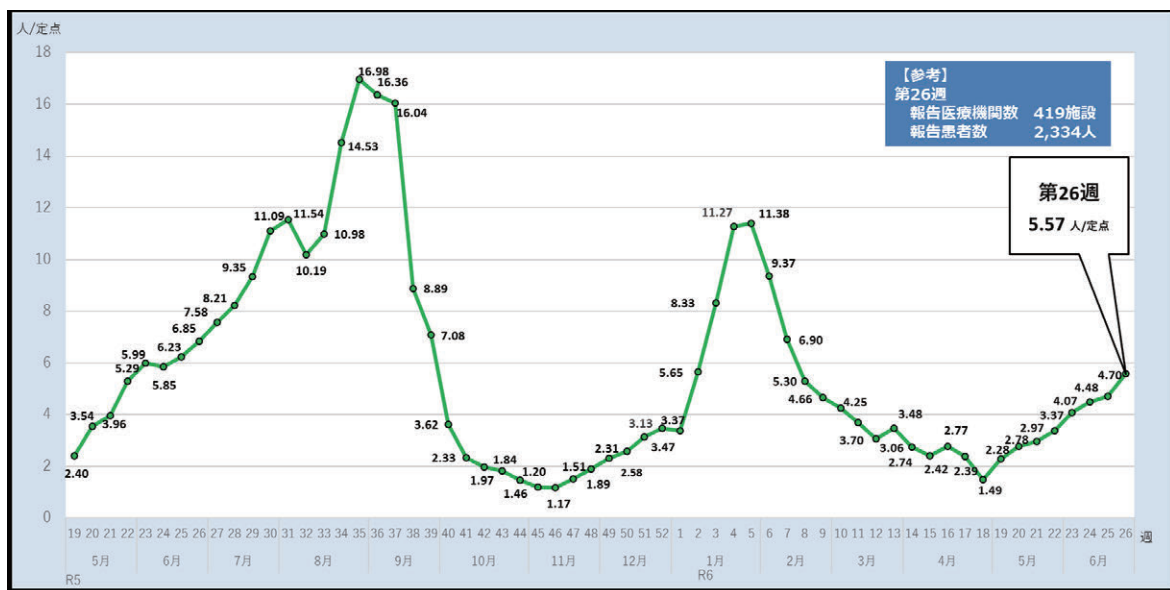


5類移行から「1年」…新型コロナウイルスは過去のもの？

2023年5月8日に新型コロナウイルス感染症の位置づけが感染症法上5類(季節性インフルエンザと同じ)に移行して、1年がたちました。2020年、年明けに日本で初の新型コロナウイルス感染症が確認されてから約4年半を経て、昨年5類感染症になり、行動制限はなくなり、感染対策が個人の判断となっています。今では、街中でマスクを着用する人は目立たなくなり、海外からの観光客も増加するなど、私たちの暮らしも少しずつ平常を取り戻してきたかのようです。5類に移行したからといって、「もうコロナウイルスはいなくなった」「コロナになっても気にしなくてよい、注意しなくても大丈夫な病気になった」というわけではありません。これまでと同様、一人一人が「できるだけ感染を広げないよう心がける」という姿勢や取り組みを続けることはこれからも必要になります。



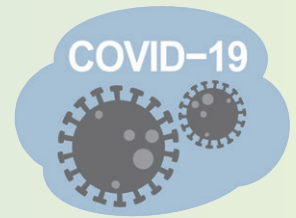
今でも波が…



定点医療機関当たり患者報告数【令和6年7月5日発行】

東京都保健医療局新型コロナウイルス感染症情報第14号より引用

新型コロナの感染者数は、昨年5月以降、増減を繰り返しながら推移していて、例年夏季と冬季に患者数が増加しています。昨年は8月下旬から9月上旬にピークとなっており、今年もゴールデンウィーク後から増加傾向にあります。重症化する割合は少なくなっていますが、一部で重症化してしまう人がいることには変わりありません。また、インフルエンザと比べて流行シーズンが終わっても居すわる病気のため、感染対策は引き続き必要になってきます。



マスク着用どうすれば？

そこで気になるのがマスクの着用についてではないでしょうか。5類に移行されたことに伴い、感染対策は基本的に個人や事業所の判断に委ねられることになりました。マスクの着用も個人の判断となります。ただ、忘れてはいけないのは、私たちを取り巻く環境は変わりましたが、私たちが気を付けなければいけない対策は変わりません。人に感染させない。熱があれば外出を控え、咳・鼻水がでる場合にはマスクをつけることが必要になります。当院でも風邪症状がなくても受診する際や、面会で来院する場合にはマスクの着用をお願いしています。



ワクチン、治療薬、医療体制はどう変わった？

今年の3月末で5類移行後も続けられていた治療薬の補助やワクチンの無料接種などの特例的な支援が終了し、4月1日からは通常の医療体制で対応しています。ワクチン接種は65歳以上の人や60～64歳で重症化リスクの高い人が対象となります。この方々の自己負担額は最大で約7,000円となりました。それ以外の方は任意接種として費用は1万5,000円ほどになっています。治療薬、PCRなどの検査費用も新型コロナウイルス感染症にかかわる医療費も、他の病気と同様に1割や3割などの自己負担をする形となりました。

医療機関の体制や対応も変わり、5類移行前は受診する前に電話をして、厳重に隔離をされ、薬局にも入れないため薬を家まで届けてもらうこともあったかと思います。今でも発熱者専用の外来ブースがある医療機関もありますが、コロナだからと言って、受診が出来ない、薬局に入れないということはなくなったかと思います。今やコロナは巷にあふれる感染症になったのではないのでしょうか。

2020年のような大流行は過ぎ、多くの方が、感染症に対して危機意識を持つようになったと思います。また、必要に応じたマスク着用や換気、手洗いなどの基本的な感染症対策をとることが習慣化したと思います。そうした意識や日常的な習慣が大切になるのではないのでしょうか。

